

# 寄地区学校のあり方と町文化財について



質問者  
飯田 一 議員

① 非常に速い速度で少子化、高齢化が進んでいます。時間的な猶予は余りありません。3月に提出された「寄地区学校のあり方の提言」について、スピードを持って検討し実行に移すべきと考えます。現在の進捗状況をお伺いします。

・小規模特認校制度の検討

・学区の拡大、山村留学制度導入の検討



復旧後の寄神社大銀杏

・PTA、地域活動のあり方の見直し

② 寄地区の学校の今後の課題を検討する委員会の設置は、どのような状況になった時に設置されるのか。

③ 町指定の文化財である寄神社境内の「大銀杏」の倒壊に対する町の支援は。

① 松田町の小規模特認校制度は、小田原市の

**A**

**スピード感をもって検討する**

回答（教育長）

① 松田町の小規模特認校制度は、小田原市の

よつに多数の学区がないため、松田小学校地区からの通学になり送迎が問題となる。通学バス定期の補助制度もあるが、費用負担の発生をどう考えていくか。また、山村留学制度導入の検討は、児童・生徒がしっかり教育を受けられるように、環境を整えなければならぬ。その方法や生徒の増加策などについて、前向

きに検討したい。

② 3年後を目安に、今年度アンケートの実施を考えているが、3年後とわず適切な時期をとらえ、再度委員会の設置に向けて準備を進めたい。

③ 寄神社の関係者や氏子の皆様からの寄付で賄うと聞いているが、町としてどのような支援ができるのかを、検討していきたい。

## 早急に取り組みべき課題と中・長期的取り組みについて



質問者  
石内 浩 議員

町長は「松田ブランド」の確立と、自らトップセールスとしての全国発信、また、「オール松田」の実践と、小気味よい方針を打ち出されたが、熟慮の余裕がないくらいすでに難題がひしめいている。

町長自身の考え方に

① 前者から引き継いだ総合計画の4つの骨格形成プロジェクトについての考え方、JR松田駅舎の改築についての町の対応、(株)小田原エンジニアリングの移転に伴う町の対応について

② トップセールスをし



3月完成の(株)小田原エンジニアリング

て、県・国の新しい施策には、ぬかりのなきようされたい。また、7年後のオリンピック開催までの同時進行で、「スポーツ・健康づくり」、「おもてなし」を「オール松田」で取り組むチャンスと思うがいかがか。

**A**

**「オール松田」で町づくり**

回答（町長）

① 骨格形成プロジェクトの新松田駅南口駅前広場整備は、用地取得のため自ら出向き地権者へお願いするともに、地元の皆様への説明機会もつ

くりたい。また、交差点等の県警協議を進め、早期完了を目指す。寄地区の生活排水処理事業については、再度検討し事業手法を決定したい。JR松田駅舎の耐震改修工事は、平成27年秋に完成と伺ったが詳細は未定、店舗設置等の要望をしていきたい。(株)小田原エンジニアリングは従業員130名、新工場が3月に完成する。小・中学生の見学や職場体験ができるようになる。また、水などの災害備蓄品の支援を頂ける。

② 県・国の新たな施策には常に注意していく。特に、7年後のオリンピックをチャンスにオール松田で、健康で豊かな生活が送れるようなまじくを推進する。